

若松「東山盆踊り」3日目 市民と大熊町民 絆強める



大熊町民と会津若松市
民が絆を強めた盆踊り

泉街を流れる湯川に組まれた福島民報社寄贈のやぐらを囲んだ。熊川盆踊り愛好会による大熊町の盆唄「熊川盆唄」の演奏や、東山芸妓衆による「会津磐梯山」に由来する「会津磐梯山」の披露も披露し、会場を盛り上げた。

「東山ボン踊りナイト」も開かれた。会津民謡華葵が米菓「ボンせん」にちなんだ歌詞を盛り込んだ「会津磐梯山 Bonver」を披露し、会場を盛り上げた。

1日に開幕した会津若松市東山温泉の夏の風物詩「東山盆踊り」は3日目の3日、東京電力福島第1原発事故の影響で市内に避難した大熊町民と市民が絆を強める「大熊町民の夕べ」を繰り広げた。

大熊町からは、役場の関係者や町民ら合わせ約40人が参加した。盆踊りに先立ち、吉田淳町長が震災当時を振り返り「これまで支えてくれた市民をはじめとする多くの人に感謝したい」と話した。室井照平市長、実行委員長で東山温泉観光協会長の平賀茂美会長もあいさつした。参加者は温